

昭和39年7月15日発行

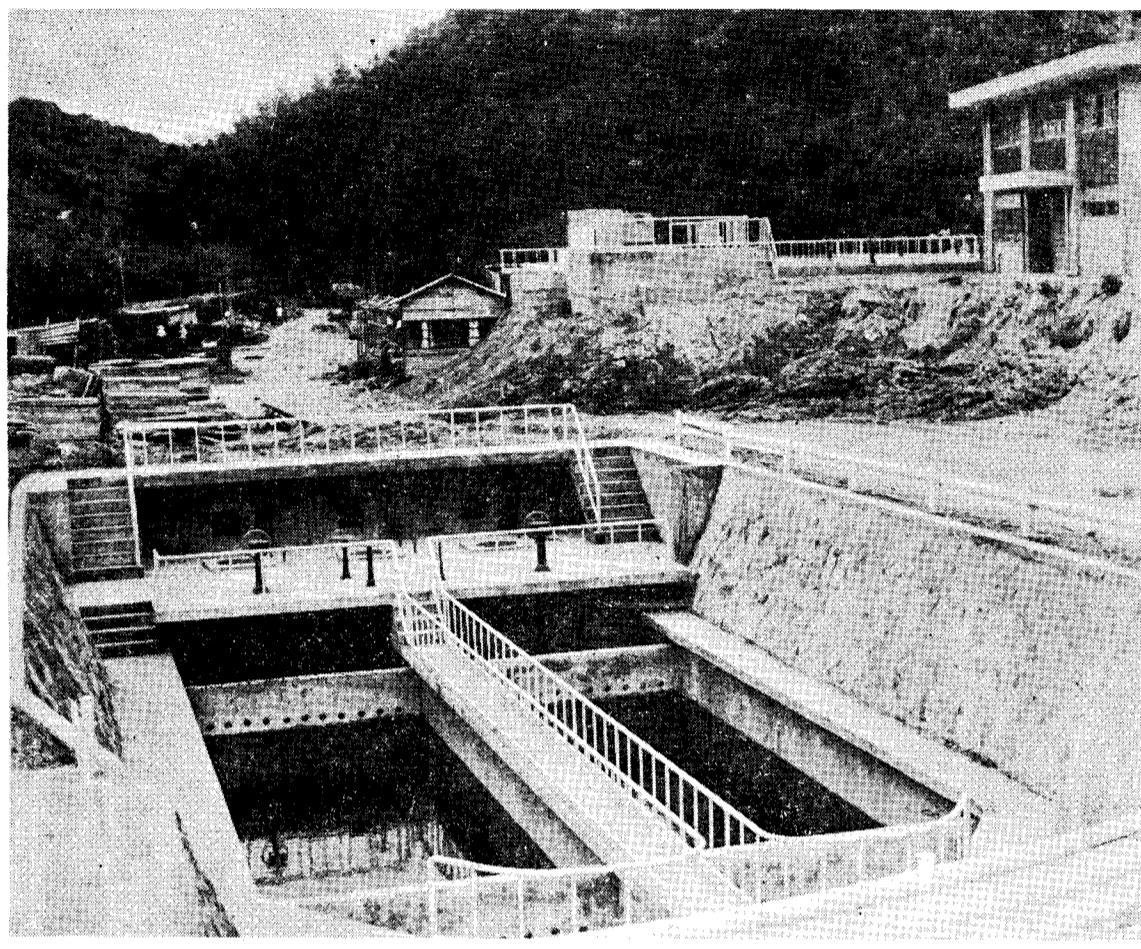
発行所 鹿児島市秘书課
編集発行人 永井隆治
印刷所 南日本新聞社印刷局

かごしま 市政だより

市役所への電話は

いつでも③-1111番へ

市役所へ電話をかける時は、いつでも、代表電話③1111番へおかけください。宿直室に簡易交換台をとりつけましたので、休日や勤務時間外でも各課へ通じます。なお従来、各課にあつた時間外直通は廃止しました。



(河頭浄水場…手前は沈砂池、上は薬品沈殿池、甲突川は写真の左手になる)

ことしもまた、水不足の時期になりました。大都市では、すでに断水や時間給水の始まっている所もあります。今まで、水には恵まれていた鹿児島市でも、使用量の増加と共に

昨年あたりから、地域的に水不足がおこり、ことしは節水をお願いしなければならなくなりました。来年に

なれば、現在建設中の河頭浄水場の水を大事に使いましょう。

給水が始まりますので、いわば、ことしがヤマということになります。鹿児島市では、従来、水に恵まれていましたので、水を粗末にする傾向があります。さきの新潟地震でおわかれのよう、市民生活につけて欠くことのできない大事なものがあります。お互いにムダ使いをやめて、

水を大事に使いましょう。

地域的に水不足、ことしがヤマ

限界にきた地下水

九時から十一時までと、夕方五時から七時までがピークです。これは、同じ時間にいつも

せいに使用するためですが、現在この「いっせい使用」を

まかうだけの水を送れない状態にあります。

そこで、つぎのことを守つ

ていただくようお願いいたし

ます。

鹿児島市の水道は、三十三

の水源地から、一日約七万ト

ンの水を給水しています。こ

れらの水源は、湧水や深井戸

などいわゆる地下水を利用し

ていますので、降雨量に関係

があります。地表に降った雨

は一ヶ月から三ヶ月のうちに

湧水として出てきます。した

がって、雨がたくさん降った

としても、すぐ使えるわけ

はありません。

他都市の水道は、殆んど川

の水を使っていますが、鹿児

島市でも、地下水の利用は、

限界にきたようですので、甲

突川の水を利用するよう、現

在、浄水場の建設をすすめて

います。

年々ふえる使用量

他の都市は、殆んど川の水を使っていますが、鹿児島市でも、地下水の利用は、限界にきたようですので、甲突川の水を利用するよう、現在、浄水場の建設をすすめています。

他都市の水道は、殆んど川の水を使っていますが、鹿児島市でも、水洗便所や冷房・洗濯機・自動車などの普及によつて、水の使用量が急激にふえています。

去年の一日の最高使用量は七万五千トンでしたが、今年は、すでに去る七月一日、七

万六千トンを記録しました。

水の使用量の多いのは八月で

すが、今年の最高は、八万二

千トン位になるとと思われます

このように、水の使用量がふえると、地域によっては、ま

たくに、雨の降った翌日や

休日は、急激に使用量がふえます。また一日の中では、朝

になると、地域によっては、ま

たくに、雨の降った翌日や

休日は、急激に使用量がふえます。

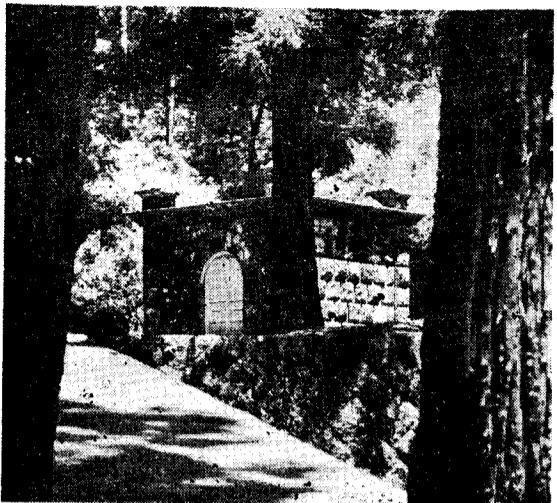
このように、水の出が悪くな

ります。また一日の中では、朝

になると、地域によっては、ま

たくに、雨の降った翌日や

市 営 施設めぐり



七窪水源地は、鹿児島市で最も古い水源地で、下田町七窪にある。一日の湧水量は一万二千トで、大正八年に通水を始めた。この水は、四棟のトンネルを通って上之原の配水池におくられたのち、各家庭へ給水される。この水源地は、吉野台地にある他の水源地と同じように、水質が極めて良好であること、水温が夏冬ともに十八度であること、水量が殆んど一定していることが特徴である。

七窪水源地

七窪水源地

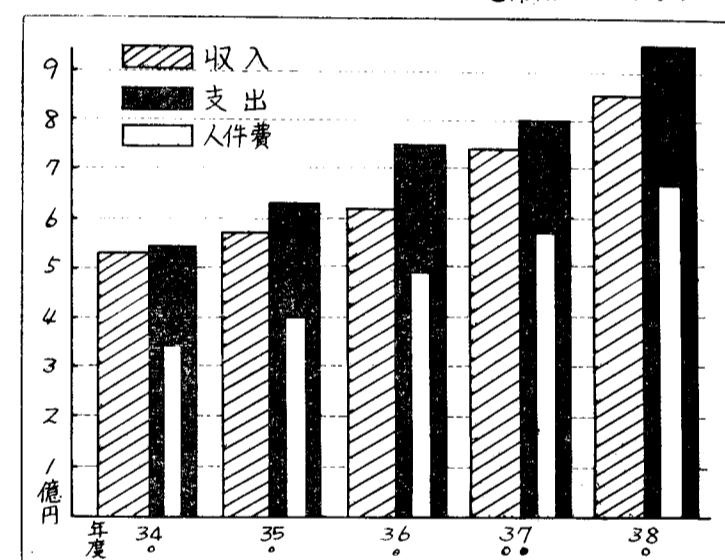
電車六十七台、バス一〇四台
にふやすと共に 路線も、そ
れぞれ大巾にふやしました。
このために借り入れた設備資金
が、現在でも、大きな影響を
あたえています。

(交通局) 赤字の原因は、いろいろありますが、遠くさがのばれば、戦災があります。終戦直後、わずか三台の車し、いよいよつゝりつゝと、現正は、

利子だけで年五千万円

(交通局) 全くその通りです。赤字による資金の不足額は、すべて借金で補っていきますが現在この借入金の総額が

(最近5年間の収支状況)



○印は料金改訂
●印はベースアップ

(最近5年間の収支状況)

年度	収入	支出	人件費
34。	5.2	5.5	3.5
35。	5.8	6.2	4.0
36。	6.2	7.0	4.8
37。	7.2	7.8	5.5
38。	8.2	8.5	6.5

(広ちゃん) それでは、現在電車の場合、今まで、午後十一時以後の利用者三七〇名で、財政再建ができるまで辛抱で対して、電車二十一台を動かして貰うことにしたわけですが。しかし、さらに研究を重ね、なるべくご迷惑のかからないようにしたいと考えています。

